

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

A MEMBER OF ORIX

第**41**期

ビジネスレポート

2016年7月1日 ▶ 2017年6月30日

株主の皆様へ	1
連結決算ハイライト	3
セグメント別業績	4

特集

ユビテックのIoT事業について	5
財務諸表	7
株式情報	9
会社情報	10

株式会社ユビテック

証券コード：6662

株主の皆様へ



代表取締役社長 荒木 克彦

平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社はこの度第41期（平成28年7月1日から平成29年6月30日まで）の決算を終了いたしましたので、ここに営業の概況等につきましてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢に改善傾向が見られましたが、英国のEU離脱問題や米国新政権の政策に対する懸念等により、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。当社グループの関連市場においても、全般的に緩やかな回復傾向にありますが、依然として投資姿勢は慎重であり、本格的な回復にはまだ時間を要するものと思われま

す。このような状況の中で、当社グループは、前連結会計年度に引き続き販売開発体制の見直しや事業ポートフォリオの再構築など抜本的な経営改革を行い、収益構造の改善に取り組んでまいりました。

業績面では、テレマティクス車載機及び主力製品である紙幣鑑別センサモジュールの販売が減少しましたが、利益は前連結会計年度に行った不採算事業の撤廃における希望退職者募集の実施や事務所統合等による固定費削減効果が寄与したことに加え、収益性の高い案件の売上構成比が上昇

したことから、前年同期比で減収増益となりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高は2,204百万円（前年同期比14.2%減少）、営業利益は108百万円（前年同期は営業損失39百万円）、経常利益は97百万円（前年同期は経常損失36百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益は72百万円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失196百万円）となりました。

■今後の見通しについて

今後の見通しにつきましては、世界経済の停滞感や中国経済の減速傾向及び新興国経済の先行き不安があり、引き続き景気の状態は慎重な姿勢が続くものと思われまます。

なお、当社グループの主力製品であるATM向け紙幣鑑別センサモジュールは、中国市場における通貨離れの影響を受ける可能性があります。企業のコンプライアンス意識の高まりや高齢者運転の見守り風潮などを受けて、新型のテレマティクス車載機につきましては、需要が多く見込まれるほか、カラオケ製品においても継続受注が予定されていることから、当社が注力してきた製品と相まって、増加の傾向にあるものと思料されます。その他、当社グループとしては、工場管理を見える化

し、生産効率を改善する先進の工場IoTをはじめ、ドライブレコーダーやテレマティクス、メディカルタグを融合させた、最新の運転見守りシステム、防災情報をリアルに把握し、社会の安全に寄与するシステム等、IoT技術を駆使した製品の展開に注力しており、各分野での確かな技術力を柱に、お客様毎の細やかなニーズに対応するため新規開発業務にも積極的に取り組んでおります。

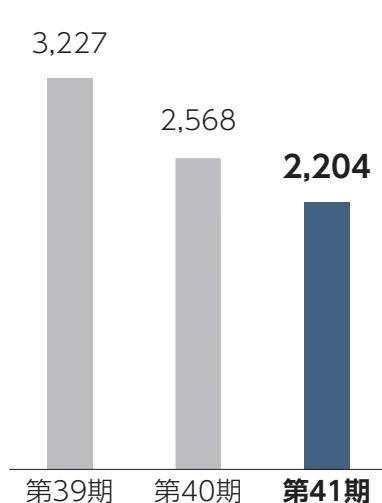
また、このような状況のもと、当社グループといたしましては、需要に適時的確に応えられる開発生産体制の整備をはじめ、様々な改善を実施し、来期については、連結会計年度の業績は、売上高は2,306百万円（前年同期比4.6%増加）、営業利益は123百万円（前年同期比13.2%増加）、経常利益は109百万円（前年同期比11.3%増加）、親会社株主に帰属する当期純利益は88百万円（前年同期比21.0%増加）を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

連結決算ハイライト

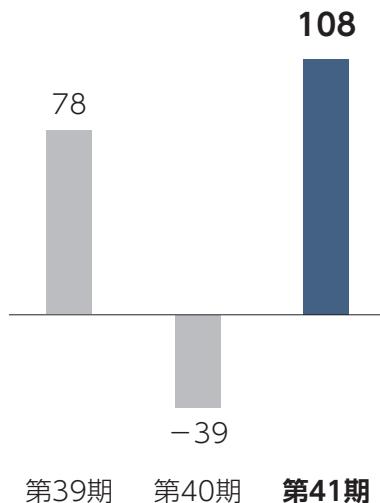
■ 売上高

(単位:百万円)



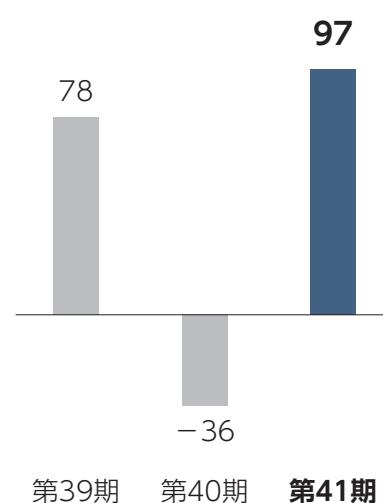
■ 営業利益

(単位:百万円)



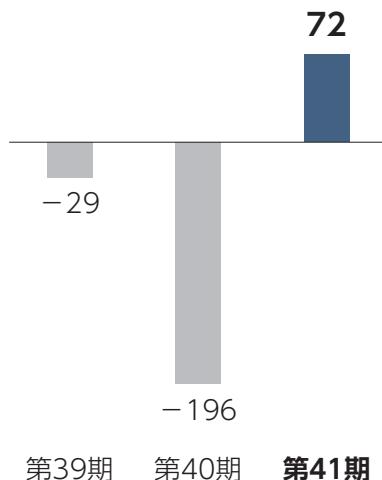
■ 経常利益

(単位:百万円)



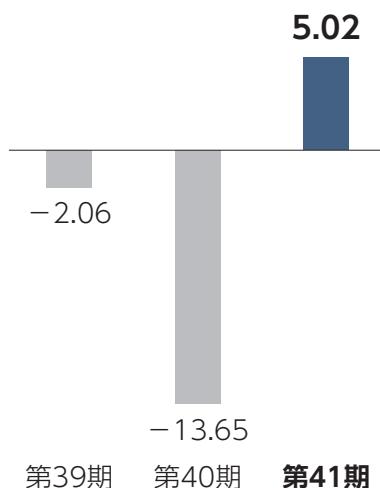
■ 親会社株主に帰属する 当期純利益

(単位:百万円)



■ 1株当たり当期純利益

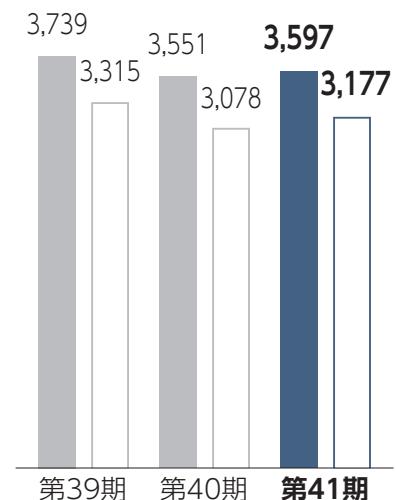
(単位:円)



■ 総資産／純資産

(単位:百万円)

■ : 総資産 □ : 純資産



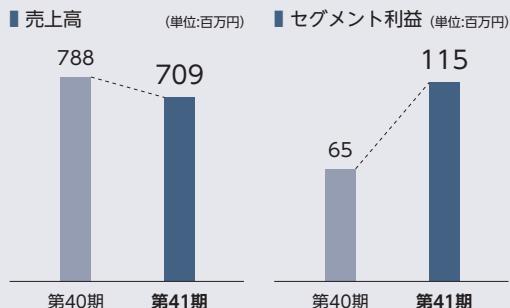
セグメント別業績

平成28年2月に策定した中期経営計画に基づき、経営管理区分の見直しを行った結果、従来「電子機器事業」及び「モバイル・ユビキタス事業」の2区分で開示しておりました報告セグメントを「IoT事業」、「製造受託事業」及び「開発受託事業」の3区分に変更しております。

IoT事業

IoT事業は、テレマティクス車載機の販売が減少しましたが、人件費削減の効果が寄与したことに加え、利益率の高いソフトウェアの開発案件を獲得できたことにより、前年同期比で減収増益となりました。

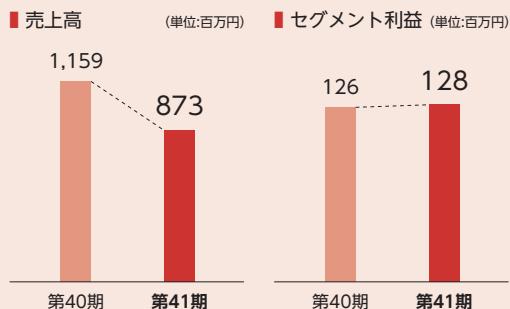
この結果、当連結会計年度の売上高は709百万円（前年同期比10.0%減少）、セグメント利益は115百万円（前年同期比77.3%増加）となりました。



製造受託事業

製造受託事業は、主力製品である紙幣鑑別センサモジュール及びカラオケ端末の販売が減少しましたが、人件費削減の効果が寄与したことから、前年同期比で減収増益となりました。

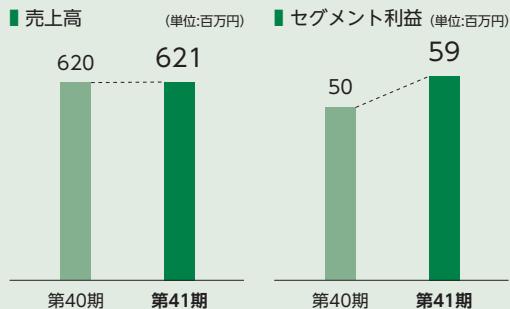
この結果、当連結会計年度の売上高は873百万円（前年同期比24.7%減少）、セグメント利益は128百万円（前年同期比1.0%増加）となりました。



開発受託事業

開発受託事業は、医療分野における遠隔電子カルテシステムや血液分析装置システム、防災情報システムの開発受注が堅調に推移し、収益構造の見直しと相まって前年同期比で増収増益となりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は621百万円（前年同期比0.3%増加）、セグメント利益は59百万円（前年同期比18.7%増加）となりました。



ユビテックのIoT事業について

あらゆるモノやコトがインターネットとつながる「Internet of Things (IoT)」時代、今年創業40年を迎えるユビテックの今まで蓄積してきた技術力が、今求められています。

様々なデータを「あつめる」、それを「つなぎ」、さらに「ため」、そして「いかす」。ユビテックが保有するこの4つの技術、その連携は、IoTのあらゆる可能性を実現することができます。IoTに必要な技術を一貫した体制でご提供できるのがユビテックのIoTビジネスです。その事例をご紹介します。



取締役IoT担当 松田和宏

1 コネクテッドカー基盤

全国14万台運用の実績を誇る「テレマティクスプラットフォーム」と、環境省と連携したCO₂排出削減事業における実証実験にも参加した「カーシェアリングプラットフォーム」をご提供しています。いずれも、独自のクラウド技術を活用したセキュアなシステムにより、つながる車の技術をご提供し、安全・確実に運用されています。

法人向けサービス活用事例

オリックス自動車の法人向けサービス「e-テレマ」で当社の技術が活躍しています。全国14万台の社用車管理と安全運転指導ツールとして活用されています。

個人向けサービス活用事例

オリックス自動車の個人向けサービス「EverDrive」で当社の技術が活用されています。遠方のご家族の自動車運転履歴をメール配信することで見守ることが可能です。



会議室管理サービス

会議室利用状況の見える化を行い、有効活用につなげるためのシステムをご提供しています。人感センサーを活用して実際の会議室の稼働状況を把握し、office365をはじめとしたスケジュールとも連携して会議室利用の最適化を図る次世代の会議室管理システムです。

本システムの特長

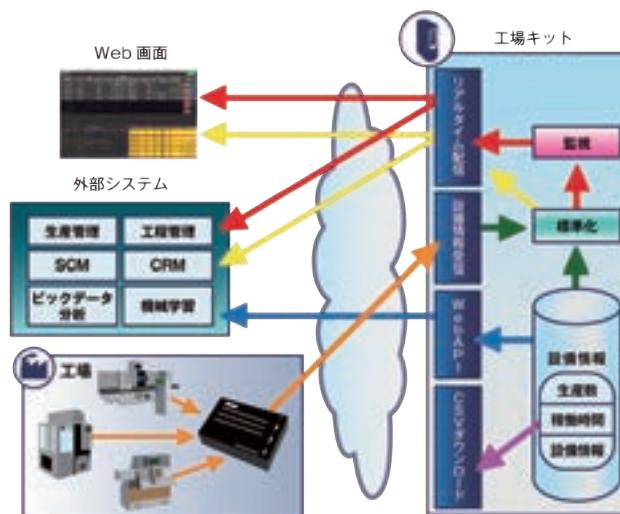
- 自動キャンセル機能
- 会議中の延長操作
- 使用状況の一覧表示
- グループウェアとの連携
- 利用実績レポート

工場IoT

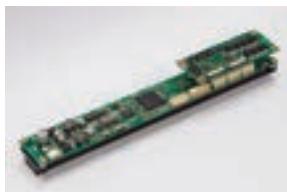
工場の効率化は実現したいが、仕組みを作り上げるには膨大なコストと時間がかかる。そんな理由で二の足を踏んでしまう事例は少なくありません。ユビテックの工場IoTは、「トライアルキット」があらかじめ用意されていますので、手軽に導入して効果を確認することができます。さらに、ニーズに合わせたカスタマイズも可能です。

▶ 本システムの特長

- 設備稼働情報のリアルタイム監視
- データを標準化することで設備稼働情報を一元管理
- 外部システムとのAPI連携



IoTビジネスを支えるユビテックのサービス



▶ ハードウェア受託・量産

開発から量産まで一貫して対応するサービスをご提供しています。お客様の様々な課題に応じて、コスト低減、設計変更、長期継続生産が可能です。



▶ ソフトウェア受託開発

自社開発で蓄積した技術を受託開発として提供しています。要件の定義からシステムのリリースまで、お客様のシステム開発全般に一貫して協力することが可能です。

ユビテックは、「あつめる・つなぐ・ためる・いかす」という、IoTビジネスに必要な技術と経験をお客様のニーズに合わせてご提供することで社会に貢献します。

財務諸表

連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	前期末	当期末	科目	前期末	当期末
資産の部			負債の部		
流動資産	3,376,289	3,416,501	流動負債	420,582	365,698
現金及び預金	2,310,222	2,756,840	固定負債	52,055	54,164
受取手形及び売掛金	630,262	463,836	負債合計	472,638	419,862
製品	203,666	93,315	純資産の部		
仕掛品	34,415	14,179	株主資本	2,992,269	3,099,952
原材料及び貯蔵品	113,771	53,230	資本金	891,132	928,831
繰延税金資産	1,407	3,271	資本剰余金	605,034	642,733
その他	83,032	32,236	利益剰余金	1,556,048	1,585,063
貸倒引当金	△ 488	△ 408	自己株式	△ 59,946	△ 56,676
固定資産	175,253	180,982	その他の包括利益累計額	△ 10,899	△ 1,345
有形固定資産	91,510	101,795	新株予約権	70,968	50,824
無形固定資産	18,212	22,175	非支配株主持分	26,565	28,191
投資その他の資産	65,531	57,012	純資産合計	3,078,904	3,177,622
資産合計	3,551,542	3,597,484	負債純資産合計	3,551,542	3,597,484

前期末 = 2016年6月30日現在

当期末 = 2017年6月30日現在

連結損益計算書

(単位：千円)

科目	前年同期	当期
売上高	2,568,347	2,204,673
売上原価	2,143,703	1,766,191
売上総利益	424,643	438,482
販売費及び一般管理費	464,428	329,812
営業利益	△ 39,784	108,670
営業外収益	5,669	1,902
営業外費用	2,015	12,658
経常利益	△ 36,131	97,914
特別損失	143,267	531
税金等調整前当期純利益	△ 179,399	97,382
法人税等合計	15,956	23,032
当期純利益	△ 195,355	74,350
非支配株主に帰属する 当期純利益	1,124	1,644
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 196,479	72,705

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

区分	前年同期	当期
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 126,071	452,867
投資活動による キャッシュ・フロー	469,290	△ 20,711
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 43,068	14,072
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 2,489	390
現金及び現金同等物の 増減額	297,661	446,618
現金及び現金同等物の 期首残高	1,412,560	1,710,222
現金及び現金同等物の 期末残高	1,710,222	2,156,840

株式情報 (2017年6月30日現在)

■ 大株主

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
オリックス(株)	8,527,200	57.84
糸谷 輝夫	414,100	2.80
(株)SBI証券	355,100	2.40
本田 康訓	286,600	1.94
三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)	200,000	1.35
日本マスタートラスト信託銀行(株) (株式付与ESOP信託口)	161,200	1.09
むさし証券(株)	103,000	0.69
土屋 延寿	100,000	0.67
梶川 悦子	90,900	0.61
市嶋 朋子	80,000	0.54

(注) 上記の日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)は、社員の帰属意識の醸成と経営参画意識を持たせ、長期的な業績向上や株価上昇に対する意欲や士気の高揚を図るとともに、中長期的な企業価値向上を図ることを目的としたインセンティブ・プランとして、ESOP信託を導入したことによるものであります。

■ 株式の状況

発行可能株式総数

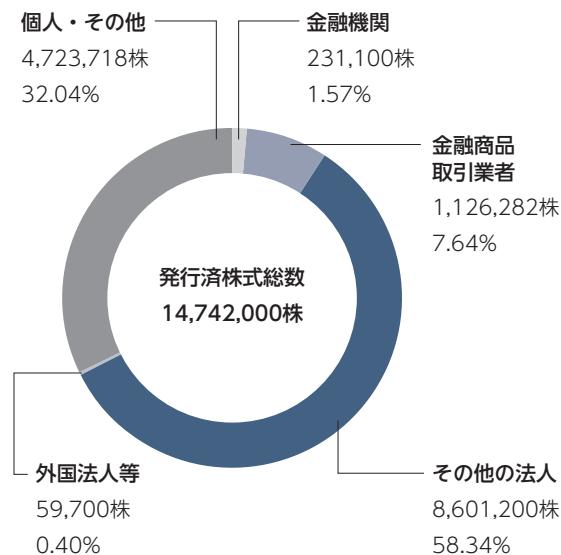
52,000,000株

発行済株式総数

14,742,000株

株主数

3,302名



会社情報 (2017年9月27日現在)

■ 会社概要

商号	株式会社ユビテック Ubiteq,INC.
設立	1977年11月17日
所在地	〒106-0047 東京都港区南麻布三丁目20番1号 Daiwa麻布テラス
資本金	928百万円
金融商品取引所	東京証券取引所 (ジャスダック)
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人
証券コード	6662
従業員数	91名 (連結)
連結子会社	株式会社ユビテックソリューションズ UBITEQ SOLUTIONS VIETNAM,LTD.

■ 役員

代表取締役社長	荒木 克彦
取締役	松田 和宏
取締役	錦織 雄一
取締役	高橋 英文
取締役	前川 淳
社外取締役	江崎 浩
社外取締役	中澤 仁
常勤監査役	片野 一宏
社外監査役	与謝野 肇
社外監査役	津谷 忠男

■ 株主メモ

事業年度

毎年7月1日から翌年6月30日までの1年間

基準日

定時株主総会、期末配当 毎年6月30日
中間配当 毎年12月31日

定時株主総会

毎年9月下旬

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1番1号
TEL.0120-232-711 (通話料無料)

郵送先

〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行 証券代行部

公告方法

電子公告 (<http://www.ubiteq.co.jp>)

ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

